

必見

水稻生産者の皆様へ 高温に負けない稲づくり

令和6年
全農千葉県本部・
千葉県

《はじめに》

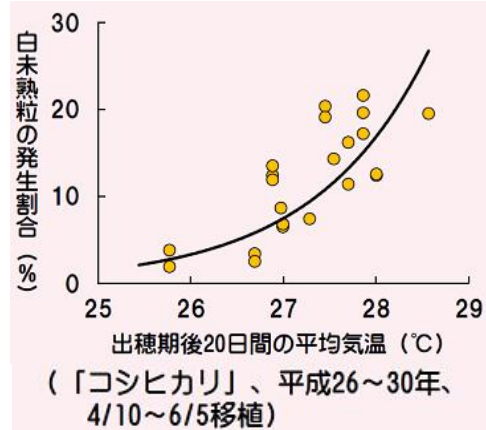
■ 本年も非常に高い気温で推移していることから稲の高温障害が心配されます。特に出穂期後20日間の平均気温が 26℃を超えると高温登熟障害となり、白未熟粒の発生が多くなり等級落ちにもなるため対策を徹底しましょう。



基白粒

背白粒

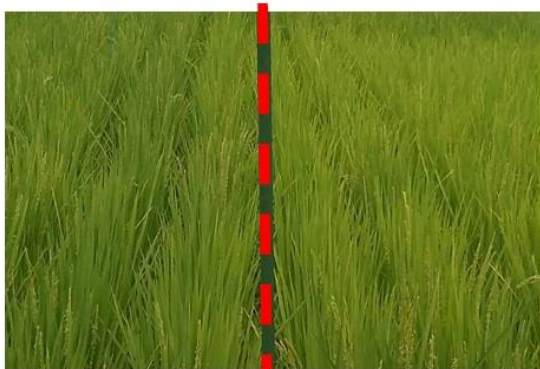
(農林水産省ホームページから)



《対策1》出穂期前の追肥

■ 登熟期間の葉色を保つことで、白未熟粒の発生が軽減されます。

出穂期後の高温が予想される時は、出穂期前7~5日(穂ばらみ期)に葉色を確認しましょう。葉色が淡く目標値に達しないと予想される場合は、軽減対策として10a当たり窒素量で 1 kgを上限(食味低下を防ぐため)に追肥を施用しましょう。



葉色が生育目標に達している水稻(左 SPAD:36.0)、
達していない水稻(右 SPAD:30.8)
(「コシヒカリ」、出穂期)

各品種の出穂期の葉色目標及び軽減対策
における対策時期と施用窒素量

品種	葉色 (SPAD値)	対策 時期	窒素 量
ふさこがね	36.5	出穂期	1kg/
コシヒカリ	34.4	7~5 日前	10a 以内
粒すけ	34.0		

「コシヒカリ」の SPAD 値 34.4 はカラースケール
による群落葉色値で概ね 4.0 に相当。



出穂期は、水稻生育予測
システム「でるた」で
予測し、実際にほ場で
確認しましょう。

■ ドローンによる追肥も可能です。

通常肥料は吸湿しやすく詰まりの
原因になります。

ドローン専用肥料をお使い下さい。

例:空散追肥306 3.3 kg/10a

Jコート Quick 2.5 kg/10a

セントラル尿素 44.5

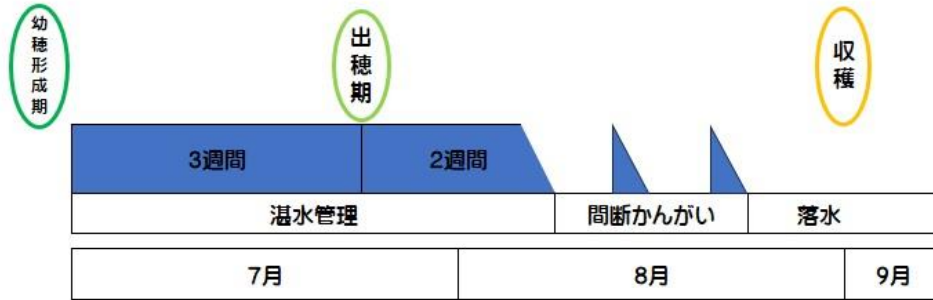
2.5 kg/10a



《対策2》根の活力を維持する水管理

■出穂期の3週間前から2週間後までの期間は、湛水状態を保ち、その後は、登熟期間後半の根の活力を維持するため、間断かんがいとします。

収穫前の落水時期が早いと、白未熟粒が増加しますので、落水は出穂期後25日以降とします。田面に大きな亀裂が入ると根が断絶され、登熟に必要な水分が不足しますので注意しましょう。



幼穂形成期以降の水管理の目安(「コシヒカリ」の場合)

《対策3》高温時は刈り遅れによる等級低下に特に注意

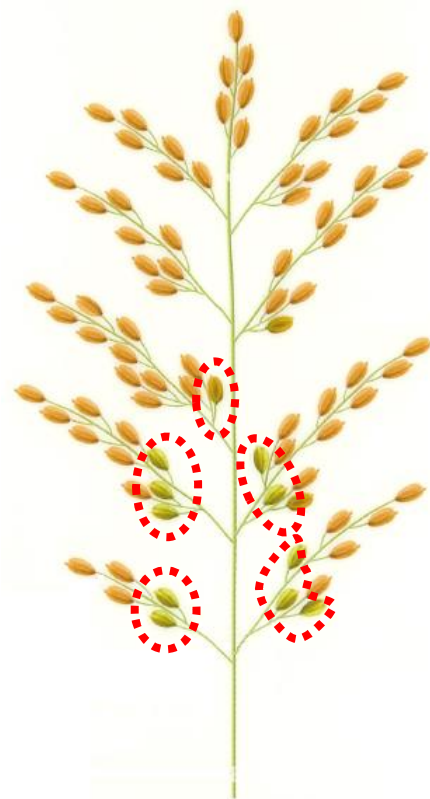
■昨年(令和5年)は、茶米(被害粒)の混入が目立つ事例が見られました。茶米の発生は刈り遅れが一要因です。



■刈り遅れは精米時の歩留りに特に影響する胴割粒の多発の原因となります。

茶米(被害粒) 胴割粒(被害粒)
(農林水産省ホームページから)

■帯緑色粳割合*が15%の時が収穫適期です。出穂期後に高温になると収穫適期が早まりますので、刈り遅れにならないように注意しましょう。(※わずかでも緑色が残っている粳の割合(不稔粳を除く)、穂の下部の枝梗に残りやすい。)



内が帯緑色粳
(平均的な株の長い穂を見る)

品種	出穂期から収穫適期までの日数(日)	出穂期後が高温の場合
ふさおとめ	33	左の日数より 3~5日程度 短縮する
ふさこがね	37	
コシヒカリ	38	
粒すけ	38	
ヒメノモチ	37	
ふさのもち	35	

注) 水稻生育予測システム「でるた」で表示される収穫時期(成熟期)は、出穂期後の高温による成熟期の前進を加味していません。出穂期後の気温が平年より高い場合は、「でるた」による予測値より早めに帯緑色粳の確認を始めましょう。

